

第3回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 令和元年12月25日(水) 13:30~14:30

2 場 所 苫小牧市役所職員会館3階 304会議室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、伊藤委員、遠藤委員、太田委員、尾崎委員、川島委員、坂本委員、
高橋委員、多田委員、渡辺委員

※須田委員、西山委員、平井委員、吉川委員、綿貫委員は欠席

(2) 事務局(市)

産業経済部 : 金谷部長

産業振興室 : 望月室長

企業政策室 : 桜田室長

商業振興課 : 武田課長、新田主査、朝倉主事

工業・雇用振興課 : 木澤課長、齋藤主査、佐藤主事、今井主事

4 概 要

(1) 開会

苫小牧市中小企業振興審議会開会(委員15名中10名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

(2) 議事

①第2回各部会の報告等について

○創業促進・事業承継部会 遠藤部会長より。

- ・現在行っている創業サポート事業は、北海道でも先進的な事業であるので、さらにブラッシュアップしていく。
- ・事業承継は掘り起しが難しいものであり、具体的な事業に繋がる様々なアイデアを出しながら進め、まずは既存の融資制度が活用できる事の周知から。
- ・新規創業者のフォローアップにて、ippoという団体がスピードの早い助け合い、活動を行っているようで、今後の参考にしたい。

○人材確保・育成部会 秋山部会長より。

- ・とまジョブにおける企業掲載数の充実、カテゴリー分けや冊子化の検討。
- ・就労型のキッズタウンをモデルにした職業体験事業ができないか。
- ・社会保険加入義務の履行に向けた小規模零細事業者に対して何らかの支援が出来ないか話したが、分類分け等の難しさ等から、適材適所の支援は難しい。

○販路拡大・需要開拓部会 坂本部会長より。

- ・中小企業者のニーズを把握するとともに、事業者の商売や商品の強み、弱みを洗い出す必要がある。
- ・すべての産業に総がかりで行うのは非常に難しく、業種、回数等ターゲットを絞って考えていく必要がある。
- ・中小企業者に制度の存在を伝える方法の検討。

-----質疑なし-----

②中小企業支援ポータルサイトについて

事務局より、目的別支援メニューの構築について、委員からの意見集約及び関係部署からの意見を加えた構築案、3月の開設に向けての今後のスケジュールを提示した（資料1）。

合わせて北九州市の「キタサポ」が認知度向上のため引き続き周知に努めている現状を報告し、構築後の周知、活用方法については非常に大事な部分になる事について報告した。

○高橋会長

周知方法、活用方法についても議論、確認を行いながら、有効的なものが出るように進めていきたい。

-----質疑なし-----

(3) 報告事項

①先進都市視察について

事務局より、10月23日から25日まで、創業の先進都市視察で福岡市、北九州市、宇部市の視察報告を行った。

【北九州市】

人口94万人と九州第2の都市。国内有数の工業都市として栄えたが、重厚長大産業の衰退に伴い首都圏や福岡市に人口が流出している。

まちの活性化の手段として創業促進を掲げ、創業者のスケールに応じた支援体制、大学や高専と連携したベンチャースクールを開催している。

『スタートアップの街北九州』として、支援を「コンパス小倉」で行っているが、コワーキングエリア、スモールオフィスエリア、シェアオフィスエリア、この3つの方々が、セミナールーム等で交流できる仕組みとなっている。

東京で行っている最先端情報の講演会をこの場で聞けるイベントもあり、自分の街にいても大都市との情報収集、発信が可能であるため、リアルタイムでヒト、モノ、カネ、情報をやり取りでき、非常に興味深い。

【宇部市】

人口16万人。企業城下町として重化学工業を基幹産業とし、港湾、空港を有して交通の便が良いあたりは苫小牧と似ている。

次世代の地域産業育成、新事業創出、ICT技術の活用、地域イノベーション推進の一つとして、「宇部スタートアップ」をまちなかにオープン。

施設維持費は市費だが、運営をコンサル会社に委託し、創業相談なら何でも出来る仕組みを構築。ラフな格好で親近感を意識し、相談件数が増えている実績もある。大学や高専との連携も北九州同様行っている。

特筆する実績が、セミナー開催が週2回ペースで行われており、近隣都市から講師を多く呼び、自治体が非常に力を入れている点。中小企業支援の一つの形と

認識できた。

宇部ラーメンや、人気アニメ新世紀エヴァンゲリオンの監督の出身地ということで、地域資源として聖地的な物を活用し、街の活性化を図っていた。

【福岡市】

人口158万人、九州最大の都市。JR博多駅から半径2.5km以内に港、ビジネス街、空港があり、立地の優位性を活かして成長を続け、人口増加率、開業率が政令指定都市でトップ、市税収入は6年連続過去最高を更新している。

平成24年に『スタートアップ都市ふくおか』を宣言し創業支援の取組みが開始し、平成26年に国から『グローバル創業・雇用創出特区』に指定され、大規模な規制緩和、改革が可能となっている。

創業施設が3つあったものを1つに集約し、創業者、支援者、お金が全て集約され、支援体制の効率向上につながった。

3段階に支援が分かれており、創業前やスモールビジネスは、民間委託業者が行うスタートアップカフェ、これから事業を大きくしたい会社には、官民共同運営のFukuoka Growth Next、IPOや会社売却したいという企業は、福岡の地場資本によるシンクタンクが協力するFukuoka D.Cでそれぞれ支援を行っている。

全国からイベント要請や講義依頼等、民間業者の動きが非常に活発であるとともに、民間業者と連携して様々な取組を行い、福岡の魅力を発信している。

【まとめ】

苫小牧市ではIT関連の生産額が全体の0.4%と低く、国内でもIT化、機械化が進む中、まちとして強化が必要ではないか。創業による雇用の創出や、国の創業機運醸成という流れから、コワーキング施設から民間活力を活用した創業支援の検討、また苫小牧が持つ地域資源の強みを発揮できる方法を見出し、検討を行っていききたい。

○高橋会長

少子高齢化が進み、街にどれだけ元気があるかと目に見えないところが大きい中で、新しいことに一生懸命取り組まれていることが良く分かった。

新たな可能性という事で、今だから出来ること、我々だから出来ることを探し、より良い形で発信や議論を進めていければと思う。

-----質疑なし-----

(4) その他

- ・会長より、審議会終了後の各部会開催場所及び次回の審議会を2月12日に開催する旨の報告があった。
- ・事務局より、第3回から第5回の部会で行うブレインストーミングの方法についての説明と、人材確保・育成部会の出席者が少ないため、別日開催を行う旨連絡があった。

(5) 閉会